



有田の幼児教育のはじまり

～有田幼稚園～



明治43年の有田幼稚園

今年も2月8日(土)から「有田雛のやきものまつり」が始まりました。町内各所で焼き物のお雛様が飾られていますが、当館で例年飾っているお雛様は焼き物ではなく、かつて有田町白川にあった有田幼稚園(有田保育園)にあったものです。

有田幼稚園は、有田で一番古い幼稚園(保育所)の流れをくむもので、中島浩氣著の『肥前陶磁史考』によると「…幼稚園の創始は、明治三十四、五年頃、小学校教員古賀礼次郎の母が幼児を集めて独力撫育せしに始まり、それも彼が転任と共に中止となりしを、同四〇年四月十二日より白川の鷲尾好一(町役場吏員)が再興し、(中略)その後久しく廃絶せしを、大正八年六月十七日深川六助またこれを復興して、私立有田幼稚園と称し…」と記されています。場所は有田小学校の敷地内に間借りしていたのを、大正八年(1919)の認可に伴い、同じ白川にあった町役場跡に設備を整えて移転し、この時の園児数は49人でした。

当時の佐賀県下の幼稚園は、明治35年(1902)の伊万里幼稚舎の開設を皮切りに、大正までに佐賀市、小城市、唐津市、そして有田で開設しました。実は有田幼稚園以外にも曲川村南川原(現在の有田町南原)に、「南川原起徳会女人会付属幼稚園」が開設し、大正2～7年(1913～1918)まで存続していたこともわかっています。このように有田では、県内でも比較的早い段階で幼児教育が始まったことがうかがえます。

さて、この有田幼稚園ですが、大正10年(1921)の記録によると、職員は園長と保母2人、園児は男42人、女33人の75人で、甲(5・6歳)と乙(7歳)の2クラスに分かれていました。保育料は月額30銭、保育内容は唱歌・談話・遊戯・手技でした。

その後大正12年(1923)の『松浦時報』という小

新聞に、有田幼稚園の保育料がついに1円を突破したという記事が出され、翌13年の有田町役場日誌にも、前述の松浦時報の社長が、幼稚園の経営不振に関して町に意見しています。その後、昭和2年(1927)の日誌に「幼稚園を町立に変更」したとあり、ここで町立有田幼稚園が発足しました。当館が所蔵しているお雛様は、この町立有田幼稚園時代のものでしょうか。



有田幼稚園の雛祭りの様子(昭和14～20年)

さらに昭和10年(1935)には町立の有田託児所が新たに開設され、昭和23年(1948)に有田幼稚園と有田託児所が合併し、町立有田保育園となりますが、これは昭和22年(1947)に児童福祉法が制定され、ようやく保育所の法制度が整備されたことと、大正15年(1926)に制定された幼稚園令が廃止され、幼稚園は教育基本法に基づいて運営されることになったためかと思われます。

以降、有田町立の保育園は町村合併により数を増やし、次々に新築移転しますが、平成10年(1998)から民営化や整理統合が計画、実行され、現在では町立の保育園は東地区の「くわこぼ保育園」と西地区の「おおやま保育園」の2園が運営されています。有田幼稚園という名称こそなくなりましたが、子どもたちの健やかな育成を促す理念は現在も引き継がれています。今でも保育園では季節の行事が大切に行われています。展示している古いお雛様を愛でながら、有田の幼児教育の歴史に感じ入っていただければ幸いです。

(永井 都)

皿 季刊 山

No.125

春
2020

令和3年度『全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会』開催決定!!

令和3年秋、全国の工芸分野の国指定重要無形文化財が有田に大集結します。全国重要無形文化財保持団体協議会の大会を有田町や佐賀市の佐賀大学美術館を舞台に開催するもので、16の保持団体のうち染織や和紙分野の6団体は、すでにユネスコ世界無形文化遺産にも登録されています。今後も、保持団体の中から、世界無形文化遺産は増え続けることでしょう。

日本の文化財指定・認定制度では、目に見えない、無形の“わざ”のうち、特に重要なものは「重要無形文化財」として指定し、その高度な“わざ”を体得した職人の集団は保持団体として認定されます。ちなみに、団体ではなく個人認定されたものが、いわゆる「人間国宝」と通称されているものです。

有田町内では、国指定の「柿右衛門製陶技術保存会」と「色鍋島今右衛門技術保存会」が加盟しており、現在この二つの団体と有田町、そして地元有田に芸術地域デザイン学部を構える佐賀大学が協力して、大会ならびに作品展示・実演等で構成される秀作展の開催に向け、目下のところ鋭意協議を進めているところです。

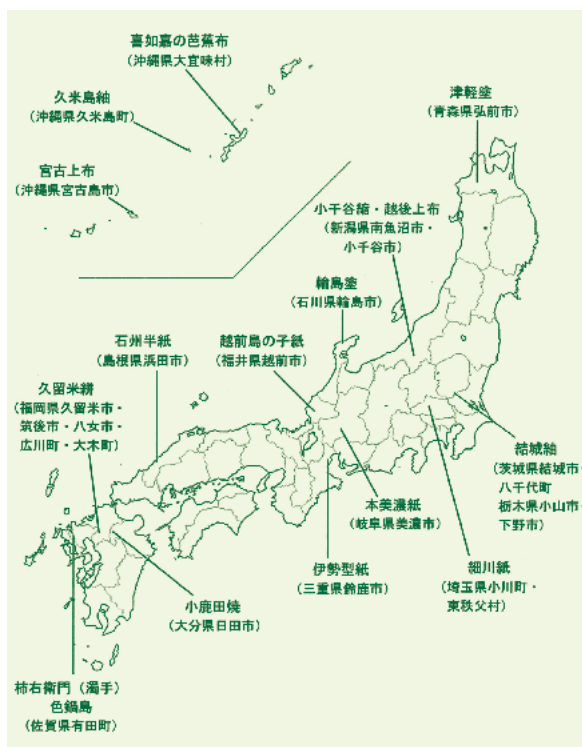
大会自体は、有田では過去にも平成8年の第5回大会と平成20年の第17回大会を受け持っています。何分にもご高齢の方の参加も多い大会ですので、200人弱にも及ぶ宿泊先をすべて事前に確保し、宿泊先から会場、会場から別の会場、そして宿泊先へとすべての送迎などの手配も必要です。徐々に規約も改正されており、第5回大会の秀作展は大有田焼会館でしたが、第17回大会の際には人の集まる中核市以上ということで、佐賀玉屋をお借りして実施しています。



令和元年度担当市 久留米大会 秀作展の様子

現在は、さらなる飛躍を目指して、第30回大会を皮切りに5年ごとを“記念大会”とすることが、新たに決められています。何と、有田はその最初の記念大会である第30回大会に当たるのです。これまで以上に、難度もひとときわです。特に記念大会はどうあるべきという指針が示されているわけでないため、従来の定型化したスタイルにこだわらず、大学生の若い発想なども取り込みつつ、地域の子供も達に一流の伝統文化に触れさせるなど、これからの大会の在り方を示す斬新な内容を関係者一同で、模索していきたいと思えます。

なお、大会に向けた今後の取り組みについては、これからも随時お知らせしていく予定です。



重要無形文化財及び関係市町村一覧

〔保持団体一覧〕

〈陶芸〉

- ・ 柿右衛門製陶技術保存会 (佐賀県) 昭和46年認定
- ・ 色鍋島今右衛門技術保存会 (佐賀県) 昭和51年認定
- ・ 小鹿田焼技術保存会 (大分県) 平成7年認定

〈染織〉

- ・ 越後上布・小千谷縮布技術保存協会 (新潟県) 昭和30年認定
- ・ 本場結城紬技術保持会 (茨城県・栃木県) 昭和31年認定
- ・ 重要無形文化財久留米絣技術保持者会 (福岡県) 昭和32年認定
- ・ 喜如嘉の芭蕉布保存会 (沖縄県) 昭和49年認定
- ・ 宮古上布保持団体 (沖縄県) 昭和53年認定
- ・ 伊勢型紙技術保存会 (三重県) 平成5年認定
- ・ 久米島紬保持団体 (沖縄県) 平成16年認定

〈漆芸〉

- ・ 輪島塗技術保存会 (石川県) 昭和52年認定
- ・ 津軽塗技術保存会 (青森県) 平成29年認定

〈和紙〉

- ・ 石州半紙技術者会 (島根県) 昭和44年認定
- ・ 本美濃紙保存会 (岐阜県) 昭和44年認定
- ・ 細川紙技術者協会 (埼玉県) 昭和53年認定
- ・ 越前生漉島の子紙保存会 (福井県) 平成29年認定

第66回文化財防火デー開催!

昭和24年1月26日に、修復中の奈良・法隆寺金堂から出火した火災によって、金堂内の壁画の大半が焼失してしまいました。世界的な文化遺産が被災したことで、この日を「文化財防火デー」と定め、全国的な防火運動が展開されています。

有田町においても、1月26日(日)に、佐賀県立九州陶磁文化館において火災消火等の訓練を実施しました。九州陶磁文化館には現在、国指定重要文化財が2点、県指定重要文化財が9点、さらに国登録有形文化財の柴田夫妻コレクションが収蔵されています。

今回は、九州陶磁文化館の1階にある陶芸実習室から出火したという想定で、発見者による初期消火、通報訓練を行い、観覧者など一般の方の避難誘導、収蔵している重要文化財の搬出、消防署員や地元消防団による放水消火訓練、町民参加の消火器取り扱い訓練など、有事の際に欠かせない訓練を実施しました。訓練後は九州陶磁文化館学芸員による重要文化財の解説を行いました。

災害が起こらないことが一番ですが、万一問題が発生した場合でも、冷静に対処できるように、日ごろから備えておくことが必要です。大切な文化財を次の世代へ伝えていくために、行政と地域住民、そして消防署員と消防団が協力することの大切さをあらためて再確認できた訓練でした。



放水訓練



避難誘導訓練



消火器の取り扱い訓練

雛人形を飾っています

当館では、毎年3月3日の桃の節句に合わせて、2月上旬～4月上旬にかけてエントランスにて雛人形を展示しています。これらの雛人形は、有田幼稚園で飾られていたもので、中でも御殿飾りは、昭和8年(1933)のものと明記されています。御殿飾りとは、明治～昭和初期まで流行した雛飾りで、京都御所の紫宸殿を模して造られた館の中に人形やお道具などを飾ります。昭和40年代になると廃れ、現在ではあまり見ることのない珍しい雛飾りです。

今年は、雛人形と一緒に当時の雛祭りの様子がわかる古写真も展示しています。1枚は、昔の商家の雛飾りの様子がわかる写真です。年代は不明ですが、雛人形の他に大小様々な日本人形等が飾られており、たいそう華やかな様子がうかがえます。

2枚目は、本号の「町史の行間」で紹介した昭和14年～20年の有田幼稚園の雛祭りの写真です。この写真には、段飾りの雛人形の他に5点の御殿飾りが写っています。実は、この中に、今回展示している御殿飾りと同一と思われる雛飾りが写っています。他にも展示している雛人形と同じものが写っているかもしれませんが、今年の雛飾りは、古写真と合わせて当時の華やかな雛祭りを楽しんでいただければと思います。

さらに、今年は当館も第16回有田雛のやきものまつりで実施中の「おひなめぐりスタンプラリー」に参加しています。このスタンプラリーは、町内29ヶ所の施設や店舗に設置されているスタンプを10ヶ所または20ヶ所集めて応募すると、抽選でプレゼントが当たるという企画です。当館以外の場所では有田らしいやきものの雛人形にも出会うことができます。ぜひご参加いただき、雛めぐりを楽しみながら有田の町を散策ください。スタンプラリーは3月22日まで実施中です。



当館エントランスの雛飾りの様子



令和元年度 れきみん応援団活動報告

平成25年に発足した当館のボランティア組織である「れきみん応援団」は、今年度で活動7年目を迎えます。今年も15名の応援団の方々に、人員不足の文化財課の人的支援をしていただきました。この一年の応援団の活躍をご報告したいと思います。

①人的支援活動

企画展の準備作業や各種イベントの補助作業をしていただきました。昨年の陶器市期間中に旧田代家西洋館で開催した特別展「よみがえるレトロモダン」では、展示前の清掃をお手伝いいただきました。また、当館で開催した企画展「わがまちアリタの平成史」では、企画展の準備作業から常設展への復旧作業まで多大なご支援をいただきました。

各種イベントとしては、夏休み子ども向け教室や、有田町文化財課の事業である文化財防火デーの補助作業をしていただきました。特に夏休み子ども向け教室の一つである町屋模型作り教室では、子どもたちの模型作りの個別指導もしていただき、どの子どもも魅力的な街並みを完成させることができました。



町屋模型作り教室の会場設営の様子

②学習活動

年に1回の視察研修と、月に1回の学習会を行っています。今年度の視察研修は、「有田史談会」と合同で長崎県の長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館と長崎歴史文化博物館に行ってきました。研修会の様子は、『季刊皿山122号』でご紹介したところです。

月に1度の学習会である「れきみん学習会」は、応援団の皆様の「有田の歴史や文化財をもっと知りたい、学びたい」という声にお応えして平成26年から始まったものです。今年度の学習会は、昨今の窯跡盗掘の状況や対策について、所蔵資料と絡めた今年度の寄贈資料の紹介、拓本講座などをテーマに行いました。3月は、窯跡の現地見学を予定しています。

当館にとってなくてはならない存在のれきみん応援

団に「参加したい」、「興味がある」という方は、お気軽に当館へお問い合わせください。



れきみん学習会の様子（資料紹介）



入館料等を改定します

有田町文化財課が所管する下記の施設について、令和2年4月1日より、入館料等を下記のとおり変更させていただきます。

有田陶磁美術館・有田町歴史民俗資料館（東館）・有田焼参考館

	改定前	改定後
入館料	大人：100円（60円）	大人：120円（80円）
	大高生：50円（30円）	高校生以下：無料
	小中生：30円（20円）	

- ※1 （ ）内の金額は、団体20名以上の料金です。
- ※2 障がい者手帳をお持ちの方は、手帳等を掲示することで本人と同伴者1名を無料とします。
- ※3 有田町歴史民俗資料館（東館）を見学される方は、隣接する有田焼参考館の入館料を免除します。

旧田代家西洋館

	改定前	改定後
観覧料	無料	無料
使用料	3時間につき：1,500円	3時間につき：1,570円

- ※4 重要文化財旧田代家西洋館条例に基づき、西洋館を使用することができます。使用に当たっては、種々の注意事項がありますので、詳しくはお問い合わせ（文化財課：0955-43-2899）ください。

季刊『皿山』

通巻125号（令和2年3月1日）
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185
URL：http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html